

新しい生活文化を発信する

AIM

主な記事

- 1～3面 座談会「もっと話してみませんか!妻と夫」
- 2～3面 No! レジ袋、Yes! マイバッグ
～マイバッグでごみ減量～
- 4面 立川・この人/アトムインフォメーション

12/25 NO.14

2005(平成17)年
年3回(8月・12月・3月)発行

発行/立川市女性総合センター
企画・編集/市民編集委員
(〒190-0012)立川市曙町2-36-2
☎042-528-6801 FAX042-528-6805
e-mailアドレス tc-aim5@m-net.ne.jp



もっとも身近なパートナーである妻と夫。よい関係でありたいと願っているが、お互いに忙しかったり、話すついでにケンカになったり、思うようにはいかない場合も多いようです。二年後には団塊の世代が定年を迎えるという現実も気になります。妻と夫が、よりよい関係を築いていくにはどうしたらよいのか、また、定年後の夫婦の新しい「ぎざな」のあり方について、「定年塾」を主宰する西田小夜子さんをコメントーターにお迎えして、アトム編集委員と座談会を開きました。

もっと話してみませんか!妻と夫



にしだ さよこ
西田 小夜子さん

1941年、東京都生まれ。作家、画家、定年塾代表。妻から見た定年夫の生態を新聞に連載し「みの虫男」「生前死後硬直人間」などの呼び名で話題となる。快適な老後を目指し「定年塾」を作った。

東京新聞に、コラム「妻と夫の定年塾」連載中。全国各地で講演し、テレビ、ラジオでも活躍している。著書に『スクーリング・ブルース』(西多摩新聞社)『定年漂流』(小学館文庫)『定年男はなぜこんなに「じゃま」なのか』(ソニー・マガジンズ)『定年!夫が一日中家にいるという生活』(PHP出版)など。

座談会

「定年塾」を主宰する西田小夜子さんを「コメントーター」に迎えて

とも二人で話していけるといいですね。
T 夫は定年後、大学に入りなおしました。私はまだ仕事をしているので、お互いに忙しく干渉しないで生活していますが、時々はそれでいいの不安になることもあります。
西田 お互いに居心地が良い

らしている感じですか。
S 夫はコミュニケーションをとれたがるタイプです。でも肝心なことは話しながらないとこががあります。ともに40代になって、お金のこと、子どものことなど相談したいと思つたときも、なかなかのつてきてくれないのです。

Y 私は定年までは仕事人間で、妻は俳句三昧の日々を過ごして、お互い生活が違うのがかえって良かったのか、幸い顔を合わせる時間には会話もありました。そして定年を迎えたわけですが、会社を退くに当たっては自身の家事の自立とこれまでの自分なりのこだわりや夢を実現

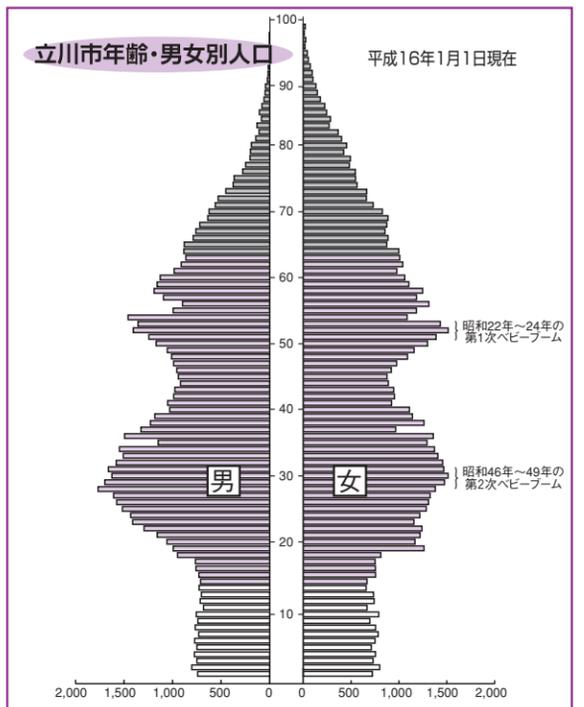
我が家の場合は?
司会 さっそくですが自己紹介を兼ねて、編集委員の方から、皆さんのご家庭での様子などお話しください。
H 夫は55才で、そろそろ定年が見えてきました。私も趣味や地域活動に参加していますが、夫が一日家に居るようになって、そうした活動はどうなってしまうのだろうかとかちよつと不安です。子どもも独立して、夫と話すことがあ

るのかしらとか。
K 夫は70代ですが活動的で海外旅行が大好きです。反対に私は家にいるほうが好きで話下手。今、親の介護で私は実家において、夫と別に暮らしていますが、お互いが自由に暮

らしたいですね。
西田 そうした傾向のある男性はけっこういらっしゃると思います。でも大事なことはふたりでしっかり話し合つて決めていきたいですね。

れば心配ないと思います。
N 子どもがまだ3才で、今はどうしても子ども優先の毎日です。夫も不満はあるかなと思うのですが、これから夫とどう向きあつていくのかがいいの、最近気になります。

また、実家の両親はともに70才前後ですが、父は頑固で威圧感が抜けず、母との関係もぎくしゃくしがちです。家族として何かできることがあればいいなと。



夫と妻スレ違いは40才から
西田 夫と妻がいつから話さなくなるかというのを調べてみたことがあります。だいたい40才前後なんですね。その頃から、夫と妻はすれ違ふようになっていくようです。ちよつと夫は地位も上がり、仕事も忙しく帰宅も遅くなる時期です。夫の不在が続くと妻は夫に相談するのをあきらめて、女友達に相談するようになっていきます。そしていつのまにか母と子どもだけ

することを計画しました。3年前、妻に介護が必要になった時は、定年後身につけた日常生活の自立力が役に立ちました。夫婦の会話は円滑ではありませんが、気持ちはお互いに相手思いやる心が強くなり、今は笑いの多い日々です。
司会 それぞれにいろんな形の夫婦関係と、また気になる問題点もみえてきたようです。西田さんはどのようにお聞きになったのでしょうか?

する

の家庭ができてしまったら、困ったことに、夫も妻もそうした状況に何の不自由も感じないばかりか、夫は妻からのめんどうな相談から解放され、ほっとさえます。

夫の知らないところで妻が

司会 夫と妻が話したいに話もしなくなる分かれ目は40才ということですね。

西田 そうです。夫が定年になって一日家に居るようになると、妻が趣味を持っていたり、地域で役員やボランティアをしていることを初めて知ります。それまで夫婦の間に会話があれば、妻が今どういうことをしているのか、何に関心を持っているのか分かるのですが、そうした会話はしていません。しかし妻は夫の知らないうちに進化しているのです。

定年になると、夫は長い間働いてきたのだからと一日家に居て、妻が外に出るのを嫌がったり、来客があると文句を言ったりして妻の自由を束縛するようになります。そうすると妻とい関係は作れません。

H 団塊の世代から上の世代は、昔ながらの日本男児気質というか、口で言わなくても分かるはずだと思っ方が多いですね。私の夫もそうかもしれません。

忙しいときも会話の工夫を

西田 たしかに育った時代というのは大きいです。でも、そう言っているのはお互いが充実した定年後の生活は迎えられるんです。

まず、働き盛りで忙しい時も、夫婦の会話は大事にすることです。妻も夫も会話の工夫をしてほしいと思います。

私も本当に夫が忙しくて、顔も見えないような時期がありました。そんな時は手紙を使いました。「子ども、Y 定年後も夫が妻を押さえてくれている家庭もあります。たとえば夫に介護が必要になった時、夫が引け目を感じて、今まで以上に妻に強く出る場合があります。そうなるのを防ぐには、妻も病院内通いをするようになったという人もいます。

西田 残念なことですがよくあるケースだと思います。でもほっとしておくわけにはいきません。夫婦二人だけで解決できない状態です。サービスを利用するか、できるだけ二人が離れるような状況を作らないと、共倒れになってしまいます。虐待につながるし、思いきって第三者に「助けて下さい」と言います。

西田 「定年塾」でもこういう妻の訴えをよく聞きます。その時は勇気を出して今度夫に言えなかったことを言ってみるようアドバイスします。

黙って耐えているだけでは何の解決にもなりません。たとえ大ゲンカになっても、定年前後に一度夫婦の

今年の誕生日、0時になった時、残業で帰宅途中の夫からメールが届いて、ちよつと嬉しかった。

西田 とてもよいことだと思います。大切なのはお互いのコミュニケーションを絶やさないことです。

定年後の夫はまず「ご飯」を自分で

どもが学校で賞をもらった」とか、どうしても伝えたいことは私が手紙に書いて、夫に伝えるようにしました。返事は子ども宛に書いてもらうようにしたので、それは子どももうれしかったようです。

N 今の時代なら、メールも利用できますね。些細なことでも、すぐに伝えられますし。私の場合ですが、

そして、それは夫にとって初めての挑戦なので、妻はけなげにほめて、夫が気持ちよく台所に入れるようにしてくださいね。そうすれば、妻は心おきなく外出もでき、万が一入院した場合でも、夫は最低限自活できるはず。料理ができるようになった夫は、自立して強くなるようですよ。

M 若い世代は料理が上手な男性もいますが、団塊世代以上はまったくできない人が多いです。私の夫もお米を洗剤で洗おうとしました。

西田 定年後に料理を始めても、Yさんのように素材にもこだわり、高い見識で調理する男性も出てきます。食べ物を用意できる人は強いです。



Kimiko

定年後の夫婦の生活

司会 よく、定年後、共通の趣味を持つといわれれますが。

西田 共通の趣味はライバル同士になることがあると聞きました。私はむしろ夫とは適度にすれ違っている方がよいと思います。それぞれが、違う場所で発散してくれば、また新鮮な気持ちで向かい合えます。

それと、私は夫婦でおしゃべりするのための外出をおススメします。外出するとなると夫もおしゃれをするでしょう。ちよつと素敵なレストランで食事するとか、映画を見るときか

間を地ならして、新しい二人の関係を構築するのが一番です。

Y 経済面を考えると、家庭内離婚という人も多いです。

西田 それも悲惨です。ストレスがたまって、寿命が縮まりそうです。N 会話が少なくなった両親のことも心配ですが、家族からできることはないでしょうか？

西田 そうした夫婦は、会話がないうままに暮らしていることが多いです。それでお互いが平和なら良いのですが、不満を感じているようなら、今からでも思っていることを口に出すようにしてみてください。夫の方も時には「俺も辛いんだよ」と言いたいと思うんです。そういう本音があふれる雰囲気を作った方がいいですよ。

私の友人に定年後は名前前で呼び合うようにした人がいます。そういう形で夫との関係を新しくしていくのです。せつかく結婚したので、老後は仲良く暮らしましょう。

Y 男性は、玄関の外へ連れ出すのが難しいです。

西田 男性はプライドが高いですから、妻が誘ってもなかなか乗ってきません。でも男同士の誘いとか、よその奥さんからの誘いは効きます。

定年は新しい人生の ***スタートライン***

妻と夫の「きずな」をもう一度考えるきっかけに

西田 この頃、新聞の人生相談にも両親の仲を心配している娘さんからの相談を見かけます。



市民企画活動事業/ワークショップ
『妻・夫と会話したい part II』
～言葉にするってむずかしい～
③「あなたと共に暮らしたい」

日時 平成18年11/21(土)13:30～15:30
会場 女性総合センター 5階第3学習室
講師 谷口都子さん(ウィメンズ・ビューに所属し、女性問題学習の講師・助言者として活躍。「月刊社会教育」副編集長。)
申込 受付中/電話で女性総合センターへ
主催 女性総合センター男女共生係(企画運営 グループ「いな」)

右の写真の木「レジ袋な一週間」は、家族構成の違う家庭で家族がそれぞれ買物をしたとき、一週間、断らずにもらったレジ袋を集めて、木の実に見立てて飾りつけたもの。ひと枝が一世帯分になります。

これは、ごみ減量運動の一環として、立川市消費者団体連絡会がレジ袋の利用実態調査をもとに作成したものです。10、11月に同連絡会・環境対策課・ゴミ対策課・立川女性総合センターが行った「マイバッグキャンペーン」のシンボルとしてアイム一階ギャラリーと市役所ロビーで展示され、レジ袋削減を呼びかけました。

日本全国のレジ袋使用枚数は、年間40億枚以上。レジ袋一枚作るために石油大さじ一杯強(16cc)いるので、一年間で家庭のお風呂(1杯200L) 320万杯になります(東京都「考えよう!地球と買物のつながり」)

立川市の「マイバッグキャンペーン」でも、不要な傘の布から作る買物袋を紹介し好評でした。傘地は雨にも強く、携帯にも便利。立川で、1年間に8、10万本がごみとして出される傘。傘バッグはごみの減量にもCO2の削減にもなって、一挙兩得です。作り方はアイム受付にあります。

あなただけの、世界でたった一つのマイバッグ、つくってみませんか。



Kimiko

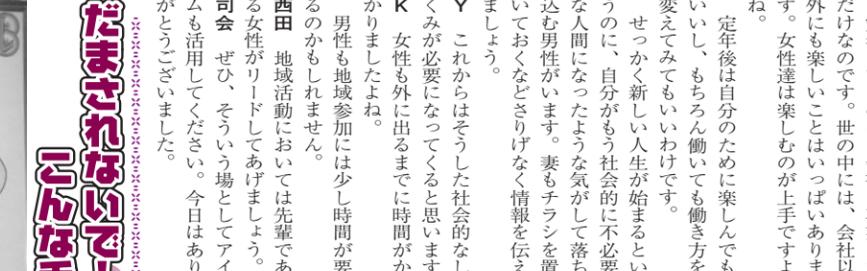
意外に多いマイバッグ派? どうしてですか? レジ袋



家を持持ちさせるためには、日頃からの手入れが欠かせないのは当然の事です。しかし、建物について専門知識が少ないと、業者に言われるままに契約してしまいがちです。無料点検と言って訪問してきては耐震工事や配水管清掃、床下換気扇、屋根裏換気扇と次々勧められて契約してしまう事例が増えています。家を建てた工務店や近くの信頼のおける工務店など、

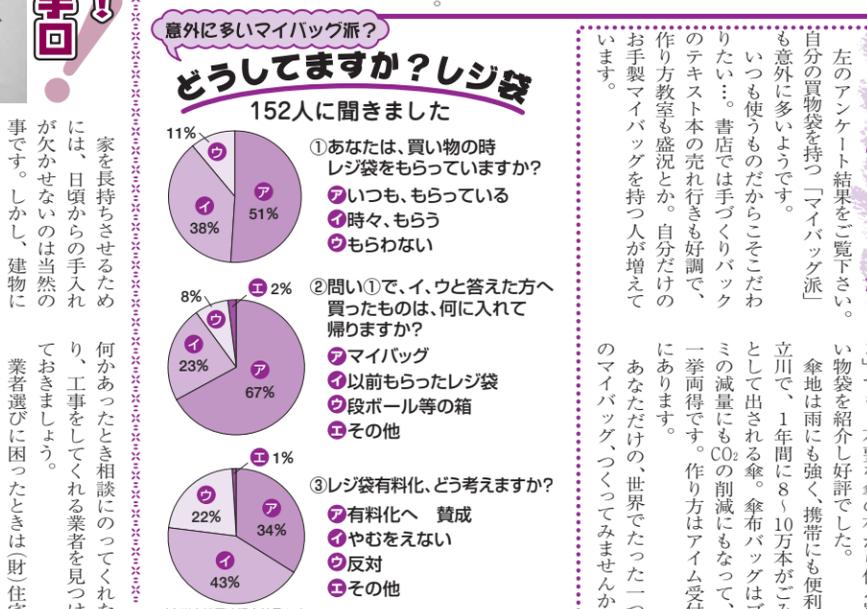
だまされたいで! いろんな手回

立川市消費生活相談コーナー
相談は、市内在住・在勤・在学の方が対象。第3木曜日は電話のみ。
月・金・午前9時～午後4時まで(正午から午後1時を除く) 専門の相談員がアドバイス。
TEL 528-6810(直通)



マイバッグの心も人気

左のアンケート結果をご覧ください。自分の買物袋を持つ「マイバッグ派」も意外に多いようです。いつも使うものだからこそこだわりたい。書店では手づくりバッグのテキスト本の売れ行きも好調で、作り方教室も盛況とか。自分だけのオリジナルマイバッグを持つ人が増えています。



10月、立川市と、立川市に隣接する9市(※)が連携して、ごみ減量を呼びかけるマイバッグキャンペーンを一斉に実施しました。
※9市:昭島・小平・日野・国分寺・国立・福生・東大和・武蔵村山・立川

多摩地域 9市、100万人が スクラム マイバッグのつみ減量!

右の写真の木「レジ袋な一週間」は、家族構成の違う家庭で、買い物した時もらったレジ袋、一週間分をつみかきを作りました。1枝、1世帯分です。

1人(20代) 大3枚 小7枚	1人(30代) 大8枚 小18枚
2人(夫婦70代) 大8枚 小5枚	2人(夫婦60代) 大5枚 小11枚
3人(夫婦60代 親80代) 大12枚 小1枚	3人(夫婦60代 子30代) 大10枚 小7枚
4人(夫婦40代、子18才、15才) 大8枚 小2枚	4人(夫婦50代、子23才、19才) 大23枚 小14枚

立川このト

白紙からでもなせば成る ネットワークの力は素晴らしい!



西山 昌子さん
女性のためのエンパワーメント講座の第4期生。アエネとほのぼの会(4期生の自主グループ)の代表。第8期立川市男女共生社会推進会議委員、立川市消費者問題研究員。立川市在住。

「アエネ」とは?

アエネで毎年行われる『女性のためのエンパワーメント講座・ワークショップに挑戦!』の修了生の集まりです。

この講座は、ジェンダーの視点で女性が知識と力をつけていくというもので、毎年同じプログラムで行われます。今年で10期になりますが、日本中で立川市だけが行っている独自講座です。

16回にわたって学習し、自分たちで考えて、ワークショップを開くまでの力をつけるわけですから、仲間意識も沸きまです。講座終了後には自主活動グループを立ち上げています。

でも、個々の活動には限界があります。それぞれが活動しながらさらに手を組めば、もっと大きな力が出るのでは?という声が増えて、アエネ(アエム・エンパワーメント・ネットワーク)が誕生しました。

03年4月に発足し、現在55名のメンバーで活動しています。

●**条例作りに向けて、奔走されているそうですね。**

発足までの約一年間の準備期間中に、ネットワークの力で、どんな活動をしていくのかを話し合いました。ちょうど、都が「男女平等参画基本条例」を制定した年で、私とその説明会に参加したとき、

「各区市町村でも自前で条例の策定を」との話聞きまして、私たちも活動の一つにしようということになりました。とは決めたものの、全くの白紙です。ともかく学ぶことから始めよう、先に条例を作った日野市や目黒区の条例策定委員の方から話を聞くところからスタートしました。

アエムが開催した市民意識調査のための「ワークショップ委員会」の委員になり、市内の各地域で人形劇を通じてのワークショップを行ったり、市民企画として「女性市議会議員と語る会」を開いたりしました。手探り状態でしたが、みんなの知恵と努力で積み上げた結果を、今年2月に、「私たちはこんな条例がほしい」と題して条例の試案を作り、ワークショップを開催しました。

ですから、第4次の『男女共生社会実現のための立川プラン』に条例の制定が重要推進課題として盛り込まれた喜びは格別のもので。しかも、私たちの試案が立川市男女共生社会推進会議で評価され、委員の方々に論議していただいたことは、大いに誇れる成果です。

●**そのパワーはどこから湧いてくるのですか?**

わずか3年で、ここまでできたことは共通の土壌を持つ仲間たちのネットワークのたまものであり、ネットワークの力です。白紙でも、市民が声をあげて力を合わせれば、素晴らしいことができるということを感じています。

これからも、立川市の男女平等参画社会の実現に向けて、ネットワークの力を発揮してゆきたいと思っています。

アエムは男女共生社会の推進と、消費生活の向上をめざす市民活動の拠点です。

アエムインフォメーション

男女共生社会を考える

もっと自由にしなやかに ~2007年をチャンスに~

アエムフォーラム'06

フォーラム

第1部 講演会

テーマ 『理想の相手は速水もこみち?』
講師 小倉千加子さん
大阪生まれ。医学博士、心理学者。聖心女子大学非常勤講師。専門はジェンダー論・心理学・女性学。愛知淑徳大学教授を経て、執筆、評論活動に入る。著書は「ザ・フェミニズム」(上野千鶴子との共著・筑摩書房)、「結婚の条件」(朝日新聞社)、「赤毛のアン」の秘密」(岩波書店)など多数。

第2部 プレイバックシアター

出演 プレイバックーズ
日本のプレイバックシアターの旗手。プレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成され

たセミプロ劇団。1996年より様々な分野において各地で定期的に数多く実現。

3/5(日)

13:20~16:10

アエムホール
〈入場無料〉

2/18(土),19(日)

10:00~16:00

アエム1・5階
ホール・ギャラリー

くらしフェスタ立川

体験!アエムワールド

~見て・さわって・考えて~

ギャラリー

- 総合受付・「スタンプラリー」スタート
- 裂布でつくる布ぞうり(申込み)
- 乳ガンの自己診断のしかた教えます
- 〈くわしくは広報1/25号で〉

健康サロン

- 18日(土)・骨密度検査/血流さらさら検査(有料)
- 19日(日)・赤ちゃんピクス(有料)

ホール

- 18日(土)・アニメ映画会(忍たま乱太郎、他)(無料)
- 講演&お芝居「撃退!消費者被害」
- 19日(日)・朗読とトークショー(無料)
- 2人のバリトンの愉快なコンサート(有料)

5階

- 消費生活相談コーナー(無料)
- くらしのポスター展(応募作品の展示)
- おもちゃの病院
- 100円カレーと喫茶コーナー(有料)

- “人形劇”で考える男女共生(人形劇)
- 立川野菜直売マップ最新情報展示
- 2月の“旬”野菜実物展示
- 食品表示を考える~冷凍ミックス野菜の表示から読む「原産国」他(展示)
- 自立を促すおもちゃ手づくり教室(有料)

市民企画活動事業

レクチャーコンサート

「歌とピアノと弦の午後」

~女性作曲家の名曲を集めて~

日時 2006年3月25日(土)
午後1時30分~3時30分

会場 女性総合センター1階ホール

講師 小林 緑さん(国立音楽大学教授)
著書に「女性作曲家列伝」

企画運営 ほのぼの会

農消連携会議で消費者と農家が交流

立川市農業経営者クラブの呼びかけで7月から始まった農消連携会議。12月は砂川地区の畑に出かけ、立川市消費者団体連絡会のみなさんが農業経営者のみなさんと現地で交流を深めました。

旬の野菜が整然と並ぶ畑の景観は、都市の緑地としても貴重な資源。これまでの交流の成果は2月のくらしフェスタで体験できます。

